

クリスチャンへの手紙

教会の数が増えていくと、重要な人物がいつも同じ教会にとどまり、直接指導にあたることはできなくなります。広く伝道旅行に出かけ、各地に教会つくったパウロの場合は、特にそうでした。そこで、まだまだ未熟なクリスチャンを教え導き、教会内で持ち上がったやっかいな問題を解決するために、多くの手紙を書いたのです。どの手紙も、それぞれ大切な事柄を扱っています。こうしたパウロの手紙に、ペテロをはじめ、ほかの数人の指導者のものを加えてまとめたのが、この手紙集です。

ローマ人への手紙（ローマ教会の皆さんへ）

著者パウロは、この手紙でローマ教会の信者に自分を紹介するとともに、彼の神学を解説しています。　そういうわけで、この手紙は、パウロの手紙のうちで最も組織立ったものと言えるでしょう。　まず、人間はだれもが罪人であることを語り、外国人もユダヤ人も、律法を守ることでは神様を喜ばせることはできないこと、および、私たちが罪人であっても、あわれみ深い神様は自ら近づいてくださり、神様に立ち返る道を備えてくださったことを、教えています。

一

ローマの愛する皆さんへ。

1 キリスト・イエスの奴隷であり、伝道者として選ばれ、神様の良い知らせを伝えるために遣わされたパウロが、この手紙を送ります。　2 この良い知らせは、ずっと以前から、神様が預言者を通して、旧約聖書の中で約束しておられたもので、　3 神のひとり息子、主イエス・キリストに関するものです。　この方は、人の子として、ダビデ王の家系にお生まれになりました。　4 しかも、死んでのち復活することにより、神様のきよい性質を備えた、力ある神のひとり息子であることが証明されたのです。

5 このキリスト様を通して、今や、神様のすべての恵みが、それを受ける資格のない罪人の私たちに、あふれるばかり注がれています。　そして今、私たちは、神様が人類のためにしてくださったすばらしいことを、全世界の人々に知らせるために、キリスト様から遣わされているのです。　それは、すべての人がキリスト様を信じ、従うようになるため

す。

6 7 ローマの愛する皆さん。 あなたがたも、キリスト様に深く愛されているのです。 また、イエス・キリストに招かれて、神ご自身のもの、つまり神様の聖なる民とされているのです。 どうか、私たちの父なる神と主イエス・キリストから、神様の豊かなあわれみと平安が、あなたがたに与えられますように。

8 何はさておき言っておきたいのは、どこへ行っても、あなたがたの評判を耳にすることです。 神様を信じるあなたがたの信仰は、世界中に知れ渡っているからです。 私は、この良い評判を聞くたびに、イエス・キリストによって、どんなに神様に感謝していることでしょう。 9 あなたがたのために私がどれほど祈っているかは、神様をご存じです。 私は、神様のひとり息子についての良い知らせを人々に伝えながら、全力投球で仕えている神様に、あなたがたに必要なものが与えられますようにと、昼も夜も祈っています。

1 0 また、神様が許してくださるなら、いつかあなたがたを訪ね、できれば安全な旅をしたいと、いつも祈っています。 1 1 1 2 どうしても行きたいと思うのは、信仰をいくらかでもお分かちして、あなたがたの教会が、主にあって強く成長するように役立ちたいからです。 それに、私も皆さんの助けが必要です。 私の信仰をお分かちするだけでなく、あなたがたの信仰によって、私も力づけてもらいたいのです。 こうして私たちは、お互いに励まし合えるでしょう。

1 3 愛する皆さん。 私がこれまでに何度も、あなたがたのところへ行こうとしたことを〔しかし、その計画は妨げられてきました〕ぜひ知っていただきたいのです。 他国の諸教会でと同様に、あなたがたのところでも、すばらしい成果を得たいと思ったのです。

1 4 私はあなたがたにも、また、ほかのすべての人にも、文明人にも未開人にも、教育のある人にもない人にも、ばく大な借りがあります。 1 5 ですから、何とかして、ローマにいるあなたがたのところにも、神様の良い知らせをお伝えしたいと、心の底から願っているのです。

1 6 というのも、キリスト様についての、この良い知らせを、私は少しも恥じてはいないからです。 この知らせは、それを信じる人をだれでも天国に導く、神様の力ある手段です。 この知らせは最初、ユダヤ人だけに伝えられていました。 しかし今では、すべての人が、この同じ方法で神様のもとに招かれているのです。 1 7 この良い知らせは、私たちがキリスト様を信じておゆだねする時、神様は私たちを、天国に入るにふさわしい者、すなわち、神様の目から見て正しい者としてくださる、と教えています。 これは、初めから終わりまで、信仰によって達成されます。「正しい人は信仰によって生きる」と、旧約聖書に書いてあるとおりです。

1 8 しかし、真理を押しつける、罪深い邪悪なすべての人に、神様の怒りは天から下ります。 1 9 なぜなら、彼らは神様についての真理を、本能的に知っているからです。 神様が、この知識を、彼らの心にお与えになったのです。 2 0 世界が創造されてからこの

かた、人々は、天地や、神様がお造りになったすべてのものを見て、神様の存在と、その偉大な永遠の力をはっきり知っていました。ですから、彼らには弁解の余地がないのです。

21 そうです。彼らは確かに神様を知っているのです。けれども、そのことを認めず、神様を礼拝せず、毎日神様に守られていることを感謝しようとしません。やがて彼らは、神様がどのようなお方か、また自分たちに何を求めておられるかについて、ばかげたことを考えるようになりました。その結果、彼らの愚かな心はくもり、何が何だか、わからなくなったのです。22 「神様なんか信じなくてもいい、自分は賢いのだ」と主張しながら、その実、全くの愚か者になってしまいました。23 そして、栄光に輝き、永遠に生きておられる神様を礼拝する代わりに、木や石で、鳥や獣や蛇、あるいは、くだらない人間の偶像を作り、それを神としたのです。

24 そこで神様は、彼らがあらゆる性的な罪に深入りするに任せました。そうです。彼らは互いの肉体で、汚らしい罪深い行為にふけたのです。25 彼らは、神様についての真理を知っていながら、信じようとせず、わざわざ、偽りを信じる道を選びました。そして、神様に造られた物には祈りながら、それらをお造りになった神様には従いませんでした。この創造主である神様こそ、永遠にほめたたえられる方です。アーメン。

26 そんなわけで、神様は彼らを放任し、したいほうだいの事をさせました。そのため、女でさえ、定められた自然の計画に逆らい、同性愛にふけるようになり、27 男も、女との正常な性的関係を捨てて、同性間で汚れた情欲を燃やし、恥ずべきことを行ないました。その結果、当然の報いを受けているのです。

28 このように、彼らが神様を捨て、認めようとしなかったので、神様は、彼らに考え出せるかぎりの悪事をさせておられました。29 それで、彼らの生活は、あらゆる悪と罪に染まり、むさぼりや憎しみ、ねたみ、殺意、争い、偽り、苦々しい思い、陰口に満ちたものとなりました。30 彼らは人の悪口を言い、神様を憎み、横柄で、高慢で、大ぼらを吹き、いつも何か新しい悪事を考え出し、親に反抗し続けました。31 わざと物事を曲解し、平気で約束を破り、情け知らずの不親切な者となりました。32 そのような罪を犯せば神様から死の刑罰を受けなければならないことを、よくよく承知の上で、その道を突き進み、しかも、自分ばかりか、他の人まで引きずり込んでいるのです。

二

1 こう書くと、あなたは「なんてひどい連中だろう」と言うかもしれません。しかし、ちょっと待ってください。あなただって、悪いことにかけては五十歩百歩ではありませんか。「そんな悪い連中が罰を受けるのは当然だ」ときめつける時、ほかでもない自分自身にそう言っているのです。あなただって、同じことをしているのですから。2 そういうことをする人には一人残らず、神様は、正義をもって罰をお下しになることを、私たちは知っています。3 それなのに、あなたは、「ほかの人の場合はいざしらず、私の場合は別だ。神様は見逃してくださる」と、たかをくくっているのですか。4 神様がどれ

だけ忍耐しておられるか、わからないのですか。それとも、そんなことは気にもかけないのですか。神様があなたを罰しめせず、長いあいだ待っていてくださったのは、罪から離れるのに必要な時間を与えるためでした。それがわからないのですか。神様のやさしい思いやりは、あなたを悔い改めに導くためのものです。

5ところが、どうでしょう。あなたは耳を貸そうともしません。強情をはり、罪から離れようとしません。こうして、恐ろしい刑罰をどんどん積み上げているのです。なぜなら、神様が裁判官として立ち、すべての人を正しくさばかれる、御怒りの日が近づいているからです。6神様は、一人一人に、その行ないにふさわしい報いをお与えになります。7神様の喜ばれることを忍耐強く行ない、目には見えなくても、神様が与えようとしておられる栄光と栄誉と永遠のいのちを求める人には、それが与えられるのです。8けれども、神様の真理に逆らい、不正な道を歩む人には、恐ろしい罰が下ります。神様の怒りは、そのような人々に注がれるのです。9罪を犯し続ける人には、ユダヤ人にも外国人にも、同じように悲しみと苦しみが降りかかります。10反対に、神様に従う人には、だれであっても、神様からの栄光と栄誉と平安とがあります。11なぜなら、神様はすべての人を公平に扱われるからです。

12 - 15神様はどんな罪も罰します。外国人が罪を犯した場合、たとい彼らが、文字に書かれた神様のおきてを知らなくてもです。彼らは心の奥底では、正しいことと悪いこととを区別できるからです。心の中には、神様のおきてが書かれてあるのです。つまり、彼らの良心が、彼らを責めたり、また時には弁護したりするわけです。ユダヤ人が罪を犯した場合、神様は彼らを罰します。神様のおきてが与えられているのに、従わないからです。彼らは何が正しいかを知りながら、実行しません。結局のところ、なすべきことを知りながら実行しない人は、救われないのです。16神様のご命令によって、キリスト・イエスが、すべての人の心の奥底に潜む思いや動機をさばかれる日が、必ず来ます。このことは、私が伝えている神様の偉大なご計画の一部です。

17あなたは、自分はユダヤ人だと称し、「ユダヤ人には神様のおきてが与えられているのだから、私と神様との間は万事うまくいっている」と考え、「私たちは神様と特別親しい関係だ」と自慢しています。18確かにあなたは、神様が何を求めておられるかを知っています。また、小さい時からずっと、神様のおきてを教えられてきたので、善悪の区別を知り、正しいほうに賛成しています。19自分は神様のもとへ行く道をよく知っているから、それを目の見えない人に示すことができる、と思っています。まるで、暗やみで道に迷った人々を神様のもとに導く燈台の光であるかのように考えています。20すべての知識と真理に満ちた神様のおきてを知っている自分には、愚かな人人を導き、子供たちにさえ神様のことを教える資格があると思い込んでいます。

21そうです。あなたは人を教えています。そのくせ、なぜ自分を教えないのですか。人には「盗むな」と説きながら、なぜ盗むのですか。22「姦淫は悪いことだ」と言いながら、なぜ姦淫するのですか。あなたは、「偶像に祈ってはいけない」と言いながら、

自分では、お金を神としています。

23 あなたは、神様のおきてを知っていると自慢しながら、おきてを破って、神様の名誉を汚しているのです。 24 「あなたがたのゆえに、世の人々は神様をけなす」と旧約聖書に書いてありますが、まさにそのとおりです。

25 もしあなたが神様のおきてに従っているなら、ユダヤ人であることにいくらかの価値はあるでしょう。 しかし、もし従っていないなら、外国人よりすぐれたところはありません。 26 たとい外国人でも、神様のおきてに従うなら、神様はユダヤ人に与えようと計画しておられたすべての特権と栄誉を、お与えになるのではないのでしょうか。 27 事実、そのような外国人は、ユダヤ人のあなたより、はるかにすぐれていることになります。 あなたは神様について多くのことを知っており、神様の約束をいただいているが、そのおきてに従わないからです。

28 ユダヤ人の両親から生まれたとか、ユダヤ人と認められるための儀式である割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けたとかいうだけでは、真のユダヤ人とは言えません。 29 真のユダヤ人とは、心が神様と正しい関係にある人のことです。 神様は、実際に体の割礼を受けて肉体の一部を切り取った人ではなく、心と思いが全く変えられた人を、捜し求めておられるからです。 人生が全く変えられた人こそ、たとい人にはほめられなくても、神様にほめていただけるのです。

三

1 では、ユダヤ人であることに、どういう利点があるのでしょうか。 彼らには何か特典があるのでしょうか。 ユダヤ人の割礼の儀式に、価値があるのでしょうか。 2 もちろんです。 ユダヤ人であることには、多くの利点があります。

まず第一に、神様はユダヤ人に自分のおきてをおゆだねになりました。〔それは、彼らに神様の御心を知らせ、それを実行させるためでした。〕 3 確かに、ユダヤ人の中には不忠実な者がいました。しかし、一部の不忠実な者が神様との約束を破ったからといって、神様も約束を破るのでしょうか。 4 絶対にそんなことはありません。たとい世界中の人がうそつきでも、神様は違います。 このことについて、旧約聖書の詩篇には「神様のことに誤りはない。 だれが疑いを差しはさもうと、いつも真実で正しい」と書いてあります。

5 ところが、こんなふうに主張する人がいます。 「でも、私たちの神様に対する不忠実は、むしろよかったのではありませんか。 私たちの罪は、かえって目的にかなうのではないのでしょうか。 なぜなら、人々は、私たちがどんなに悪い人間であるかを見て、神様がどんなに正しい方であるかに、気づくでしょうから。 すると、私たちの罪が神様の役に立っているのに、罰せられるのは、不公平ではありませんか。」〔ある人々はこんな理屈をこねるのです。〕 6 とんでもない！ 罪を見過ごすような神様があるのでしょうか。 そんなことで、神様はどうして人をさばけるでしょう。 7 たとえば、もし、私がうそをついたとします。 それと対照的に神の真実がはっきりと際立ち、私の不真実が、かえっ

て神様の栄光を輝かすとしたら、神様は私を罪人としてさばき、有罪の判決を下すことなどできなくなってしまいます。 8このような論理を突きつめてゆくと、最後には、「私たちが悪ければ悪いほど、神様には好都合だ」ということになってしまいます。 しかし、こんなことを言う人がきびしく罰せられるのは当然です。 ところが、事もあろうに、私がそのように説教していると言いはる人々がいるのです。

9 それでは、私たちユダヤ人は、ほかの人々よりすぐれているのでしょうか。 いいえ、絶対にそんなことはありません。 すでに指摘したように、ユダヤ人であろうと外国人であろうと、みな同様に罪人です。 10 旧約聖書に、次のように書いてあるとおりです。

「正しい人は一人もいない。

罪のない人は世界中に一人もいない。

11 真実に神の道に従って歩んだ人は

かつて一人もいない。

そうしたいと心から願った人さえいない。

12 すべての人が道を踏みはずし、

みな、まちがった方向に進んで行った。

正しいことをずっと行なってきた人は

どこにもいない。 一人もいない。」

13 「彼らの会話は、不潔で腐っており、

まるで開いた墓穴からもれる悪臭のようだ。

彼らの舌はうそで固められている。」

「彼らのことばには、

恐ろしい毒蛇のきばと毒がある。」

14 「彼らの口は、

のろいと苦々しいことばで満ちている。」

15 「彼らは自分と意見の合わない人を憎み、

すぐに殺す。

16 彼らの行く所ではどこでも、

悲惨な結果とめんどろな問題があとを絶たない。

17 彼らは一度も心の安らぎを感じたことがなく、

神の祝福を味わったこともない。」

18 「彼らには、

神を恐れて悪事から遠ざかろうとする気持ちなど、

少しもない。」

19 そんなわけで、神様のさばきが、ユダヤ人に重々しくのしかかっています。 なぜなら、彼らは神様のおきてを守る責任があるのに、守らず、こうした悪事にふけっているからです。 彼らのうち一人として、申し開きのできる者はいません。 事実、全世界が全

能の神様の前に沈黙して立ち、有罪の宣告を受けているのです。

20 さて、おわかりでしょうか。 おきての命じることを実行して、神様に正しい者と認められようとしてもむだです。 私たちが神様のおきてを深く知れば知るほど、自分が従っていないことが明らかになるからです。 神様のおきては、私たちに、自分が罪人であることを自覚させてくれるだけです。

21 22 しかし今や、神様は、天国へ行く別の道を示してくださいました。 その新しい道は、「善人になる」とか、神様のおきてを守ろうと努力するような道ではありません〔とはいっても、この道については、ずっと前から旧約聖書で教えられていたのですから、実際には新しい道とは言えませんが〕。 神様は今、「もし私たちが、イエス・キリストを信じきるなら、あなたがたを受け入れ、『罪のない者』と宣言する」と言われます。 どんな人間であろうと、私たちはみな、キリストを信じきるという、この方法によって救われるのです。 23 そうです。 すべての人は罪を犯しました。 神の輝かしい標準にはほど遠い存在です。 24 けれども、もし私たちがキリスト・イエスを信じきるなら、神様は私たちを「罪のない者」と宣言してくださいます。 このキリスト・イエスが、恵みにより、無償で私たちの罪を帳消しにしてくださるからです。

25 神様はキリスト・イエスを遣わして、私たちの罪のための刑罰を受けさせ、私たちへの怒りをとどめてくださいました。 神様は、私たちをご自分の怒りから救い出すための手段として、キリスト様の血と私たちの信仰とをお用いになりました。 ですから、それまでの時代に罪を犯した者たちを罰せられなかったとしても、神様は完全に公正であられたわけです。 キリスト様が来て人々の罪を取り除く時を、神様は待ち望んでおられたからです。 26 そして今日でも、神様はこの同じ方法で罪人を受け入れてくださいます。 イエス様が彼らの罪を帳消しにしてくださったからです。

しかし、このように、罪を犯した者を赦し、無罪を宣告するのは、神様の公正なやり方に反するのではないのでしょうか。 いいえ、そんなことはありません。 なぜなら、彼らが自分の罪を帳消しにしてくださったイエス様を信じたという事実に基づいて、神様はそうなさるからです。

27 それでは、救われるために、私たちは何か誇れるようなことをしたのでしょうか。 何もしていません。 なぜでしょう。 私たちは自分の善行によって無罪とされるのではないからです。 それは、キリスト様が成し遂げてくださったことと、キリスト様に対する私たちの信仰に基づいているのです。 28 つまり、私たちが救われるのは、キリスト様を信じる信仰だけによるのであって、善行によるものではありません。

29 神様はこの方法で、ユダヤ人だけをお救いになるのでしょうか。 いいえ、それ以外の外国人も、同じようにして神様のもとに行くことができます。 30 神様はすべての人を全く平等に取り扱われます。ユダヤ人であろうと外国人であろうと、人はみな、信仰があれば無罪とされるのです。 31 それでは、信仰によって救われるのなら、もはや神様のおきてに従う必要はないことになるのでしょうか。 正反対です。 実のところ、私た

ちはイエス様を信じきってこそ、ほんとうに神様に従うことができるのです。

四

1 2 この問題について、アブラハムの場合を考えてみましょう。 アブラハムは、人間的に見れば、私たちユダヤ民族の先祖にあたります。 信仰によって救われる問題について、彼はどんな経験をしたのでしょうか。 彼が神様に受け入れられたのは、良い行ないをしたからでしょうか。 もしそうなら、彼は誇れたはずですが。 しかし、神様の目から見ると、アブラハムには、誇る理由などみじんもありませんでした。 3 というのは、旧約聖書に「アブラハムは神様を信じた。 だから、神様はアブラハムの罪を帳消しにして、『罪のない者』と宣言された」と書いてあるからです。

4 5 しかし、アブラハムが天国に行く資格を得たのは、良いことをしたからではないでしょうか。 違います。 救いは贈り物として与えられるものだからです。 もし善行によって救われるとすれば、もはや無料ではなくなってしまう。 ところが、救いは無料なのです。 救いは、自分の力で手に入れようとしない人にこそ与えられます。なぜなら、罪人が、キリスト様は自分を神様の怒りから救い出してくださいと信じきる時に、神様は彼らを、正しい者と宣言してくださるからです。

6 ダビデ王は、救われる値打のない罪人が、神様から「罪のない者」と宣言される幸いについて、こう言っています。

7 「罪を赦された者、罪をすっかり消された者は、なんと幸いだらう。

8 もはや主に罪を数え上げられないですむ人の喜びは、どんなだらう。」

9 すると、次のような質問が出て来ます。 この祝福は、キリスト様を信じた上に、さらにユダヤ教のいろいろなおきても守っている人にだけ与えられるのでしょうか。 それとも、ユダヤ教の規則は守らなくても、ただキリスト様を信じてさえいれば与えられるのでしょうか。 アブラハムの場合はどうだったのでしょうか。 「アブラハムは信仰によってこれらの祝福を受けた」と言われています。 それは、ただ信仰だけによったのでしょうか。 それとも、ユダヤ教のいろいろな規則も守ったからなのでしょうか。

1 0 この質問に答えるためには、まず、次の質問に答えなければなりません。 神様はいつ、アブラハムにこの祝福をお与えになったかということです。 それは、彼がユダヤ人になる前——すなわち、ユダヤ人として認められるための儀式である割礼を受ける前——のことでした。

1 1 アブラハムが割礼を受けたのは、神様が彼をその信仰のゆえに祝福すると約束された時より、もっとあとのことです。 割礼の儀式が行なわれる前に、アブラハムはすでに信仰を持っており、神様はすでに彼を受け入れ、ご自分の目から見て正しい者、良い者と宣言しておられました。 割礼の儀式は、そのしるしだったのです。 こうしてアブラハムは、ユダヤ教のいろいろなおきてに従わなくても、信じて救われる人々の、信仰の父とさ

れています。ですから、これらの規則を守っていない人々も、信仰によって神様から正しい者と認めていただけることがわかります。 12 アブラハムは同時に、割礼を受けているユダヤ人の、信仰の父でもあります。ユダヤ人は、アブラハムの例から、自分たちはこの割礼の儀式によって救われるのではないとわかるはずです。なぜなら、アブラハムは、割礼を受ける前に、ただ信仰によって神様の恵みを受けたからです。

13 そういうわけで、全地をアブラハムとその子孫に与えるという神様の約束は、アブラハムが神様のおきてに従ったからではなく、神様は必ず約束を果たしてくださる、と信じたからこそ与えられたことは明かです。 14 にもかかわらず、神様の祝福は「完全に善良な」人に与えられると主張するなら、「信仰を持つ者に対する神様の約束なんか意味がない。信仰なんかばかげてる」と言っているのと同じです。 15 ところが、実際には、神様のおきてを守ることによって神様の祝福と救いとを得ようと努力しても、結局は、神様の怒りを招く結果に終わるだけです。なぜなら、それを守ることなど、とうていできないからです。おきてを破らないためには、破るようなおきてを持たないにかぎります。

16 そういうわけで、神様の祝福は、無代価の贈り物として、信仰によって与えられるのです。ユダヤ人の習慣に従うか否かに関係なく、アブラハムと同じ信仰を持っているなら、神様の祝福を確実にいただけるのです。信仰の面から言えば、アブラハムは、私たちみんなの父です。 17 旧約聖書に、神様はアブラハムを多くの国民の父とされた、とあるのは、この意味にほかなりません。神様は、どこの国の人でも、アブラハムと同じように、神様に信頼する者を、みな受け入れてくださるのです。神ご自身が——そうです。死人を生き返らせ、未来の出来事を、すでに実現したかのような確実さでお語りになる、神ご自身が——そう約束しておられるのです。

18 神様はアブラハムに、「あなたに一人の男の子を授けよう。その子から多くの子孫が生まれ、偉大な民族となるのだ」と言われました。この時アブラハムは、そんな約束はとうてい実現するとは思えなかったにもかかわらず、神様を信じました。 19 アブラハムの信仰は強かったので、百歳の自分が、もう父親になれる年ではないことも、また九十歳の妻サラが子供を産めるとは思えないことも、気にかけませんでした。

20 アブラハムは少しも疑うことなく、ひたすら神様を信じ、その信仰と信頼はますます強くなりました。彼は、そのことがまだ実現しないうちから、その祝福のゆえに神様を賛美しました。 21 神様の約束はどんなことでも実現すると、堅く信じていたのです。

22 この信仰のゆえに、神様は彼の罪を赦し、「罪のない者」と宣言してくださったのです。

23 ところで、「彼は信仰によって神様に受け入れられ、正しい者と認められた」という、このすばらしいことばが書かれたのは、ただアブラハムのためだけでなく、 24 私たちのためでもあったのです。それは、主イエス様を死人の中から復活させた神様の約束を信じる時、神様がアブラハムと全く同様に、私たちをも受け入れてくださることを保証しています。 25 主イエス様は、私たちの罪のために死にました。そして私たちを、神様との正しい関係に入れ、神様の恵みで満たしてくださるために、復活なさったのです。

1 そういうわけで、私たちは、神様の約束を信じる信仰によって、神の目から見て正しい者とされているのですから、今や神様との間に真の平和を得ています。 それは、私たちの主イエス・キリストのおかげです。 2 信仰のゆえに、キリスト様は私たちを、いま立っている、この最高の特権ある立場に導いてくださいました。 そして私たちは、神様の私たちにに対する計画がすべて実現するのを、確信と喜びにあふれて待ち望んでいるのです。 3 私たちはさらに、さまざまな問題や困難に直面した時も喜ぶことができます。 それは忍耐を学ぶのに役立つからです。 4 忍耐によって、私たちの人格は筋金入りにされ、ひいては神様への信頼を深められるのです。 こうしてついに、私たちの希望と信仰は、強く、何ものにも動じなくなるのです。 5 そうなった時、どんなことが起ころうと失望落胆せず、また、万事が益であるとわかります。 それは、神様がどんなに深く愛してくださるか、わかるからです。 私たちは、そのあたたかい愛を全身で感じています。 それは、神様が聖霊様を与えてくださり、その聖霊様が私たちの心に、神様の愛を満たしてくださっているからです。

11 今や私たちは、神様との驚くべき新しい関係を心から喜んでいます。 それはただ、主イエス・キリストが私たちの罪のために死んで成し遂げてくださったこと、すなわち、私たちを神様の友としてくださったことのおかげなのです。

12 アダムが罪を犯した時、罪は全世界に入り込みました。 アダムの罪により、死が全人類に広まり、すべての人は年老いて死ぬよう定められました。 それと言うのも、すべての人が罪を犯したからです。 13 これらの原因がアダムの罪にあることを、私たちは知っています。 というのは、もちろんアダムからモーセまでの時代にも、人々は罪を犯していましたが、神様はそこには、ご自分のおきてを破ったかどで、彼らに死刑を宣告したりは、なさらなかったからです。——神様はまだ、彼らにご自分のおきてを与えず、また、彼らにどんな行為を望んでいるかも、告げておられなかったのです。 14 そうい

うわけで、彼らの肉体の死は、彼らの罪のせいではありませんでした。 アダムのように、禁断の木の実を食べるな、という神様の特別のおきてを破ったわけではないからです。 アダムと、やがて来ることになっていたキリスト様とは、なんと対照的でしょう。 15 人間の罪と神様の赦しとの間には、なんと大きな違いがあることでしょう。 一人の人アダムは、自分の罪によって多くの人に死をもたらしました。 しかし、一人の人イエス・キリストは、神様のあわれみによって、多くの人に赦しをもたらしたのです。 16 アダムの一つの罪が、多くの人に死の罰をもたらしました。 一方、キリスト様は、無代価で多くの罪を取り除き、その代わりにすばらしいいのちを下さるのです。 17 この一人の人アダムの罪により、死はすべての人を支配する王となりました。 しかし、神様から、罪の赦しと無罪放免という無代価の贈り物をいただく人はみな、この一人の人イエス・キリストによって、いのちの王となります。 18 そうです。 アダムの罪は、すべての人に刑罰をもたらしましたが、キリスト様の正しさは、人々を神様の前に正しい者とするのです。 それで、人々は生きることができるのです。 19 神様に従わなかったアダムは、多くの人を罪人にしましたが、神様にお従いしたキリスト様は、多くの人を神様に受け入れられる者としてくださいました。

20 「十戒」が与えられて、すべての人は、自分がいかに神様のおきてに従えない存在か、よくわかるようになりました。 しかし、私たちは、自分の罪深さを知れば知るほど、赦してくださる神様の満ちあふれる恵みが、いつそうわかるようになるのです。 21 以前は、罪がすべての人を支配し、死に導きました。 しかし今では、反対に神様の恵みが私たちを支配するようになり、主イエス・キリストによって、私たちに神様の前での正しい身分を与え、永遠のいのちへと導いてくれるのです。

六

1 では、神様がますます私たちを恵み、赦し続けることができるように、私たちは罪を犯し続けるほうがよいのでしょうか。

2 3 もちろん、絶対にそんなことはありません。 罪を犯さないでいられるようになったのに、なおも罪を犯し続けてよいのでしょうか。 私たちがクリスチャンになり、バプテスマ（洗礼）を受けてキリスト・イエスの体の一部となった時に、罪の支配力は打ち破られてしまったのです。 すなわち、キリスト・イエスの死によって、あなたがたの罪深い性質は打ち砕かれ、力を失ったのです。 4 罪を愛する古い性質は、キリスト様が死なれた時、バプテスマによって、キリスト様と共に葬り去られました。 そして、父なる神が、栄光の力でキリスト様を復活させてくださった時、あなたがたは、キリスト様のすばらしい新しいいのちを与えられ、そのいのちに生きる者となりました。

5 あなたがたはキリスト様の体の一部として、キリスト様が死なれた時、いわば、いっしょに死んだのです。 そして今は、キリスト様の新しいいのちをいただいており、やがてキリスト様と同じように復活するのです。 6 あなたがたの古い邪悪な欲望は、キリスト様といっしょに十字架につけられました。 罪を愛する部分は、打ち砕かれ、致命傷を負

いました。それは、罪を愛する体が、もはや罪の支配を受けず、二度と罪の奴隷にならないためです。 7 罪に対して死んでしまえば、どんな罪の誘惑や力からも自由にされるはずだからです。 8 罪を愛する古い性質が、キリスト様といっしょに「死んだ」のですから、確かにあなたがたは、キリスト様の新しいいのちを共有しているのです。 9 キリスト様は死人の中から復活し、もう二度と死ぬことはありません。死には、もはやキリスト様を支配する力がないのです。 10 キリスト様は、罪の力にとどめを刺すために、ただ一度死なれました。しかし今では、神様との絶えることのない交わりの中に、永遠に生きておられます。 11 ですから、あなたがたの古い罪の性質を、罪に対して死んだものの、反応しなくなったものとみなしなさい。そして、その代わりに、私たちの主イエス・キリストによって、神様に対して生きる者、敏感に応答する者となりなさい。

12 これからはもう、あなたがたの短命な体を罪の支配にゆだねてはいけません。罪深い欲望に従ってはいけません。 13 体のどんな部分をも、罪を犯すための悪の道具にしてはいけません。むしろ、自分自身——あなたがたの全肢体——を、完全に神様にささげなさい。なぜなら、あなたがたは、死人の中から生かされた者であり、神様の思いのままに使っていただく道具として、神様の良い目的に役立とうと願っているからです。 14 罪は、二度とあなたがたを支配しません。なぜなら、あなたがたはもう、おきて〔このおきてを手段として、罪はあなたがたを奴隷にしたのです〕に束縛されてはおらず、神様の恵みとあわれみの下にあつて、自由の身となっているからです。

15 それでは、どうなのでしょう。おきてを守ることによってではなく、神様の恵みを受けることによって救われるのであれば、「かまわないから、どんどん罪を犯そう」ということになるのでしょうか。絶対にそんなことはありません。

16 知らないのですか。自分の主人は自分で選べるのです。〔死を伴う〕罪を選ぶこともできれば、〔無罪の宣告を伴う〕従順を選ぶこともできます。だれかに自分をささげれば、その相手があなたがたを受け入れて主人となり、あなたがたはその奴隷となるのです。 17 神様に感謝すべきことに、あなたがたは、以前は罪の奴隷になる生き方を選んでいましたが、今では、神様からゆだねられた教えに心から従う者となりました。 18 今やあなたがたは、罪という古い主人から解放されて、正しさという新しい主人の奴隷になっているのです。

19 このように奴隷と主人の例をあげてお話しするのは、そのほうが、わかりやすいからです。あなたがたは、かつて、あらゆる罪に仕える奴隷であったように、今は、あらゆる正しいこと、きよいことに仕える奴隷にならなければなりません。

20 あなたがたは、罪の奴隷であった時には、良いことについては無関心でした。 21 その結果はどうだったのでしょうか。明らかに、かんばしくないものでした。だからこそ、かつて自分がしていたことを考えるだけでも、恥ずかしくなるのです。その行き着くところは、永遠の滅びです。 22 しかし今は、罪の力から解放されて、神様の奴隷になっています。そして、神様があなたがたに下さる恵みによって、きよくされ、永遠の

いのちがある者とされるのです。 2 3 罪の支払う報酬は死です。 しかし、神様が、ただで下さる贈り物は、私たちの主キリスト・イエスによる永遠のいのちです。

七

1 キリスト様を信じるユダヤ人の皆さん。 おきては死んだ人まで拘束しないことに、まだ気づかないのですか。

2 一例をあげれば、女は結婚すると、夫が生きている限り、おきてによって夫に束縛されています。 しかし夫の死後は、もはや束縛されません。 結婚の規定は、もう適用されないのです。 3 はかの男と結婚したければ、結婚してかまいません。 夫が生きているうちは罪悪ですが、夫の死後なら、やましいことは少しもありません。

4 かつて、ユダヤ教のおきては、あなたがたの「夫」すなわち主人でした。 しかし、あなたがたは、言わばキリスト様といっしょに十字架上で「死んだ」のですから、「おきてとの結婚関係」は解消されました。 もうおきてに支配されることはありません。 そして、キリスト様の復活と同時に、あなたがたも復活し、新しい人になりました。 今では、死人の中から復活された方と「結婚している」のです。 神様のために良い実を結ぶため、すなわち、善を行なうためにです。 5 あなたがたの古い性質がまだ生きていた時には、罪深い欲望があなたの内部で跳びはね、神様のご命令には何でも逆らい、罪深い行ないという、死に至る腐った実を結びました。 6 しかし、もうユダヤ教のおきてや習慣にわずらわされる必要はありません。 なぜなら、それらに捕らわれていた間に、あなたがたは「死んだ」のですから。そして今では、心から神様に仕えることができるようになっていきます。 昔のように、一連の規則に機械的に従うではありません。 心から喜んで、真心こめて仕えるのです。

7 私が、神様のおきては悪いものだと言っているとお思いですか。 絶対にそんなことはありません。 おきてそのものが悪いわけではありません。 それどころか、おきてが私の罪を明らかにしてくれたのです。 もし「心に邪悪な欲望をいだいてはならない」というおきてがなければ、私は、自分の心にある罪——そこに潜んでいる邪悪な欲望——に気づかなかったでしょう。 8 ところが罪は、邪悪な欲望に対してこのおきてを逆用しました。 このような欲望が悪いことをわからせながら、かえって、あらゆる禁じられた欲望をかき立てました。 破るようなおきてさえなかったなら、罪を犯すこともなかったと思います。

9 私は、おきてが実際に何を要求しているかを知らなかった時には、気楽に構えていることができました。 しかし、真実がわかった時、自分がおきてを破っており、死を宣告された罪人であることが、はっきりわかりました。 10 ですから、私に関する限り、本来いのちの道を示してくれるはずの良いおきてが、かえって、死の罰を科すものになってしまったわけです。 11 罪は私をだましたのです。 神様の良いおきてを盾に取り、私を死罪に定めたのですから。 12 しかし、おきてそのものは全く正しく、善であることは、おわかりいただけると思います。

13でも、はたして納得できますか。私に死の運命をもたらしたのは、ほかならぬおきてなんです。 どうしておきてが良いものでありえましょう。 その張本人は、実は、罪なのです。 おきてを利用して死罪をもたらしたのは、悪魔的な、この罪だったのです。 罪がどんなにずる賢く、恐ろしく、いまわしいものか、わかるでしょう。 自分の悪い目的のために、ぬけぬけと神様の良いおきてを利用するのですから。 14おきては良いものであり、それ自体に問題はありません。 問題はむしろ私にあります。 私は、罪という主人に、奴隷として売り渡されているからです。

15私は自分が全くわかりません。 ほんとうは正しいことをしたいのに、できないのです。 反対に、したくないこと、憎んでいることをしてしまいます。 16自分の行ないが誤りであること、破っているおきてそのものは良いものであること、それは、よくわかっています。 17しかし、どうにもできません。 それをしているのは、もはや私ではないからです。 悪を行なわせるのは、私のうちに住みついている、私より強力な罪なのです。

18古い罪の性質に関する限り、私は自分が全く腐敗しきっていることを知っています。 どんなにもがいても、自分で自分に、正しいことを行なわせることができません。 そうしたいのですが、できないのです。 19良いことをしたいと思ってもできず、悪いことをしないようにと努めても、どうしてもやめられません。 20自分ではしたくないことをしているとすれば、問題点は明らかです。 すなわち、罪がなお私をしっかり捕らえているのです。

21正しいことをしたいと思っているのに、どうしても悪いことをしてしまう、これが人生の現実であるように思えます。 22新しい性質をいただいた私としては、神様の意志どおり行ないたいのです。 23 - 25ところが、心の奥深くに潜む低劣な性質には、何か別のものがあって、それが私の心に戦いをいどみます。 そして、ついに私を打ち負かし、いまだに私のうちに住みついている罪の奴隷にしてしまうのです。 私は、心では、喜んで神様に従う召使でありたいと願いながら、実際には、相変わらず罪の奴隷となっている自分に気づくのです。

これで、私の実情がおわかりいただけたでしょう。 すなわち、新しいいのちは、「正しいことをせよ」と命じているのに、いまだに住みついている古い性質が、罪を犯したがるのです。 ああ、私はなんとみじめで哀れな人間でしょう。 いったいだれが、このひどい低劣な性質の奴隷状態から解放してくれるのでしょうか。 ただ神様に感謝します！ 主イエス・キリストによって、私は解放されました。 この方が自由の身にしてくださったのです。

八

1 こういうわけで、今やキリスト・イエスに属する人は、有罪の宣告を受けることはありません。 2 なぜなら、いのちを与える御霊の力〔この力を、キリスト・イエスは私に与えてくださいました〕が、罪と死の悪循環から解放してくれたからです。 3 神様のおき

てを知っているだけでは、罪の支配から救い出されません。 私たちはそれを守ることもできないし、実際守ってもいないからです。 ところが、神様は私たちを救うために、別の計画を実行に移されました。 すなわち、神様のひとり息子を、私たちと同じ体を持つ者として〔ただ私たちのような罪の性質を持たない点では異なりますが〕この世にお遣わしになったのです。 そして、彼を私たちの罪のためのいけにえとして、私たちをがんじがらめにする罪の支配を、打ち破られたのです。 4 ですから、今や私たちは、聖霊様に従って歩むなら、神様のおきてに従えるのです。 そしてもはや、古い邪悪な性質の言いなりになることもありません。

5 低劣な性質の言いなりになっている人は、自分を喜ばせるためにだけ生きています。 しかし、聖霊様に従って歩む人は、神様をお喜ばせしようとしている自分に気づくのです。

6 聖霊様に従って歩むなら、いのちと平安が待っています。 しかし、古い性質に従って歩めば、死に行き着くのです。 7 古い罪の性質は、神様に敵対するからです。 古い性質が神様のおきてに従ったことは一度もなかったし、これからも決してありません。 8 ですから、なおも古い罪深い自我に支配されて、欲望に従い続ける者は、決して神様をお喜ばせできないわけです。

9 しかし、あなたがたはそうではありません。 もし神の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、新しい性質に支配されているのです。 〔もしその人のうちにキリストの御霊が住んでおられないなら、その人はクリスチャンではありません。〕 10 ところで、キリスト様がうちに住んでおられるとしても、あなたがたの体は、やはり罪のために死にます。 しかし、あなたがたの霊は生きるのです。 キリスト様があなたがたの霊を赦してくださったからです。 11 そして、もしイエス様を復活させた神の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、神様は、この同じ聖霊様によって、死後も、あなたがたの滅ぶべき体を復活させてくださるのです。

12 ですから、愛する皆さん。 あなたがたの古い罪深い性質がどんなことを要求しても、それに応じる必要は全くありません。 13 もし古い罪深い性質に従い続けるなら、道に迷い、やがて滅びるしかありません。 しかし、もし聖霊様の力によって、その罪深い性質と、邪悪な行ないとを打ち砕くなら、あなたがたは生きるのです。 14 神の御霊によって導かれる者はだれでも、神様の子供だからです。

15 そこで私たちは、奴隷のように、いつもびくびく恐れる必要はありません。 神様の家族の中に、子供としてあたたかく迎え入れられたのですから、実の子供らしくふるまい、神様を「お父さん」と呼ぶべきです。 16 というのは、神の聖霊が、私たちの心の奥底に、私たちはほんとうに神様の子供だと語りかけてくださるからです。 17 ところで、私たちは神様の子供なのですから、神様の財産の分け前をいただくのです。 神様がひとり息子イエスにお与えになったものは、今では私たちのものでもあるからです。 しかし、私たちが神の子の栄光を共に受けるのなら、当然、その苦難をも受けなければなりません。

18 けれども、私たちがいま味わっている苦しみなどは、後にいただく栄光に比べたら、

取るに足りないものです。 19 神様がお造りになったものはみな、やがて神の子供たちが復活させられる日を、忍耐と希望をもって待ち望んでいます。 20 21 その日には、いばらやあざみ、罪、死、腐敗など〔この世界は、神様のご命令により、不本意ながら、これらのものに支配されていますが〕は跡形もなく消え去り、私たちを取り巻く世界は、神の子供たちが喜びをもって味わう、罪からの輝かしい解放にあずかるからです。

22 動物や植物のような自然界のものでさえ、このすばらしい日を待ち望みながら、病気や死の苦しみにうめいていることを、私たちは知っています。 23 そればかりか、クリスチャンでさえ、聖霊様を自分のうちにいただいて、将来の栄光を先取りしているにもかかわらず、苦しみと悩みから解放されたいとうめいています。 また、神様の子供としての完全な権利が与えられるその日を、ひたすら待ちこがれています。 その日には、神様が約束してくださった新しい体、すなわち、もはや病気にかかることも死ぬこともない体をいただくのです。

24 私たちは、このように信じて待ち望むことで救われています。信じて待ち望むとは、今は持っていないくても、やがて与えられると確信して待つことです。すでに持っている人は、神様が与えてくださると期待したり、信じて待ち望んだりする必要はありません。

25 しかし、まだ起こっていないことを、神様を信じて待たなければならないのなら、忍耐強く、確信をもって待ち望むことです。

26 聖霊様も同じようにして——すなわち、私たちの信仰を通して——日常生活の問題や、祈りの中で、助けてくださいます。 私たちは、何を、どのように祈ったらよいかさえ、わからないのですが、聖霊様は、ことばに表わせないほどの切実な感情をこめて、祈ってくださいなのです。 27 すべての人の心を知っておられる父なる神は、御霊が私たちのために、神ご自身のお心にかなう願いをささげてくださる時、その願いの意図するところを、もちろん知っておられます。 28 そして私たちは、神様を愛し、神様のご計画どおりに歩んでいるなら、自分の身に起こることはすべて、益となることを知っているのです。

29 というのは、神様はあらかじめ、だれが自分のもとに来るかご存じで、そのような人々がご自分の息子と同じになるようにと、最初から定めておられたからです。 それは、ひとり息子を大ぜいのクリスチャンの中で長子とするためでした。 30 神様は私たちを選び、招いてくださいました。 そして、私たちがおそばに行くと、私たちに「無罪」を宣言し、キリスト様の良い性質を下さり、神様との正しい関係を結ばせ、さらに、栄光を与えると約束してくださいました。

31 こんなにすばらしい恵みに対して、いったい何と言ったらよいでしょう。 神様が味方なら、だれが私たちに敵対できるのでしょうか。 32 神様は私たちのために、たった一人の息子をさえ惜しまずに、死に渡してしまわれたほどのお方ですから、ほかのすべてのものをも下さらないわけがあるのでしょうか。

33 神様がご自分のものとして選ばれた私たちを、あえて訴えるのはだれですか。 神様ですか。 とんでもない。 神様は、私たちを赦し、ご自分と正しく関係づけてくださっ

た方ではありませんか。

34では、私たちに有罪を宣告するのはだれですか。 キリスト様ですか。 とんでもない。 キリスト様は、私たちのために死に、そして復活し、今は天で、神の右の最も名誉ある座で、私たちのために祈っていてくださるお方ではありませんか。

35では、いったいだれが、私たちをキリスト様の愛から引き離せるでしょうか。 私たちは困難や災難に会い、また迫害され、殺されるかもしれません。 しかしそれは、神様が、もう私たちを愛しておられないからでしょうか。 また、もし私たちが飢え、文なしになり、危険にさらされ、死に脅かされるなら、神様に見捨てられたことになるのでしょうか。

36違います。 旧約聖書にこう書いてあるからです。

「神様のためには、いつでも
死ねる心がまえでいなければならない。
私たちは殺されるのを待つ羊のようだ。」

37しかし、こうした中にあっても、私たちは、いのちを投げ出してまで愛してくださったキリスト様によって、圧倒的な勝利を得るのです。 38神様の愛から私たちを引き離せるものは何一つない、と確信しています。 死にもいのちにも、そんなことはできません。 御使いにもできません。 地獄の全勢力を結集しても、神様の愛から遠ざけることはできません。 今日の恐れも、明日の不安も同様です。 39あるいは、私たちがどこにしようと——空高くのぼっても、海の底深くもぐっても——私たちの主キリスト・イエスの死によってはっきり示された神様の愛から、私たちを引き離せるものは、何一つありません。

■

九

1 - 3私の同胞であるイスラエルの人々、同国人であるユダヤ人の皆さん。 あなたがたがキリスト様のおそばに来ることを、私はどんなに望んでいることでしょう。 昼も夜も、あなたがたのことで心は重く、悲しみのあまり、胸も張り裂けんばかりです。 あなたがたが救われるためなら、私は永遠にのろわれてもかまいません。 むしろ、のろわれたいくらいです。 口先だけでこう言っているのではないことは、キリスト様も聖霊様も知っておられます。

4神様は実に多くのものを与えてくださいました。 それなのにあなたがたは、いっこうに神様に聞き従おうとしません。 神様はあなたがたを、ご自分の特別な民として選び出し、栄光に輝く雲によって導き、また、どんなにあなたがたを祝福したいと思っておられるかをお示しになりました。 さらに、日常生活のさまざまな規則も与えてくださいました。 おかげであなたがたは、神様が自分たちに望んでおられることを知ることができます。 神様はまた、あなたがたに神様を礼拝することを教え、数々のすばらしい約束を与えてくださいました。 5あなたがたの先祖には、神様を信じる偉大な信仰の持ち主がい

ます。キリストご自身も、人間としての出生についてだけ言えば、ユダヤ人であり、あなたがたの同胞だったのです。このキリスト様こそ、今やすべてのものを支配しておられる方です。神様を永遠にほめたたえましょう。

6 それでは、ユダヤ人に対する神様の約束は無効になったのでしょうか。そんなことはありません。〔神様の約束は、真の意味でのユダヤ人にだけ与えられているのです。〕ユダヤ人に生まれついた者がみな、真の意味でのユダヤ人だとは限りません。7 血筋の上でアブラハムの子孫だからと言って、真の意味でのアブラハムの子孫ではありません。なぜなら、聖書に次のように書いてあるからです。アブラハムには、イサクのほかにも子供がいたが、神様の約束が適用されるのは、イサクとその子孫に対してだけであると。8 つまり、アブラハムの子供が全部神様の子なのではなく、神様がアブラハムにお与えになった救いの約束を信じる人々だけが、神様の子供なのです。

9 神様はアブラハムに、「来年、わたしはあなたとサラに男の子を授けよう」と約束しておられました。10 - 13 それから、何年か過ぎて、息子イサクは成長し、結婚しました。その妻リベカがみごもって、ふたごを産もうとしている時、神様はリベカに、「ふたごのうち、初めに生まれる兄のエサウが、弟のヤコブに仕える者となる」とお告げになりました。旧約聖書には、「わたしはエサウではなく、ヤコブを祝福する」と書いてあります。神様がこう宣言されたのは、子供たちがまだ生まれてもおらず、まだ良いことも悪いこともしていなかった時のことです。このことからはっきりわかるように、神様は最初から決めておいたことを実行されたのです。子供たちの行ないによってではなく、神様の意志と選びによって、すべてが決定されたのです。

14 では、神様は不公平なのでしょうか。絶対にそんなことはありません。15 神様はモーセにこう言われました。「わたしは、自分が親切にしたい人に親切にし、情けをかけてやりたい人に情けをかける。」

16 したがって、神様の祝福は、だれかがそれを得ようと決心したからとか、そのために努力したからとかで、与えられるようなものではありません。それは、神様が情けをかけたいと思う人に与えられるものなのです。

17 エジプトの王パロの場合は、この良い例です。神様はパロにこう言われました。「あなたにエジプトの国を与えたのは、わたしの恐るべき力をあなたに示すため、それによって、世界中の人々が、わたしの栄光ある名を耳にするためである。」18 これでわかるように、神様は、ご自分のお考えで、ある人々には親切にし、また、ある人々を不従順な者とされるのです。19 では、なぜ神様は人々の不従順をお責めになるのでしょうか。彼らは、神様のお考えどおりにしたではありませんか。

20 そんなことを言うてはなりません。神様を非難するあなたは、いったい何者なのか。造られた者が造った者に、「なぜ私をこのように造ったのですか」などと言ってよいでしょうか。21 ある人が粘土でつぼを作るとします。その場合、同じ粘土のかたまりを、一つは美しい花びんに、もう一つはごみ捨て容器に作り上げる権利を持っていな

いでしょうか。 22 そのように、どう考えても滅びるしかないような人々に対して、激しい怒りと力を示す当然の権利が、神様にはないと言うのですか。 しかし神様は、これらの人々に対して、これまでずっと忍耐してこられたのです。 23 24 同時に神様は、私たちのようにユダヤ人であっても、外国人であっても、ご自分の栄光の富を与えるためにお造りになった者たちを召し出し、いつくしむことで、神様の栄光がどんなに偉大かをすべての人に示す権利を持っておられます。

25 旧約聖書のホセア書に何と書いてあるか、思い出してください。 神様は、こう言っておられます。

「わたしは自分のために、
ほかの子ら〔ユダヤ人以外の家系の子〕を見つけ出し、
だれからも愛されたことのない、その子らを愛する。

26 そして、かつては
『わたしの民ではない』と宣告された異教徒たちが、
『生ける神の子ら』と呼ばれるようになる。」

27 またユダヤ人については、預言者イザヤがこう叫びました。

「たとい彼らの数が海辺の砂のように多くても、
ほんの一握りの者しか救われない。

28 主はおことばを完全に、
しかもすみやかに、
地上に成し遂げられるからだ。」

29 イザヤはまた、ほかの個所でこう言っています。

「神様のあわれみがなかったら、
ユダヤ人はみな、
ちょうどソドムやゴモラに住む人々が
全滅したように、
一人残らず滅ぼされたに違いない。」

30 それでは、どういうことになるのでしょうか。 実情はこうです。 外国人は、実際には神様を求めていなかったにもかかわらず、神様は、信仰によって無罪とされる機会をお与えになりました。 31 ところが、ユダヤ人は、神様のおきてを守ることによって、神様の前での正しい身分を得ようと、一生懸命努力したのに、得ることができませんでした。

32 なぜでしょう。 信仰によってではなく、おきてを守ること、善良な人間になることによって救われようとしたからです。 彼らは、大きなつまずきの石につまずいたのです。

33 このことについて、神様は旧約聖書の中で、次のように警告しておられます。

「わたしはユダヤ人の通り道に、一つの岩を置く。
多くの者が、それ〔イエス〕につまずくであろう。
しかし、この方を信じる者は、

決して失望させられることがない。」

一〇

1 愛する皆さん。 私が心から願い、祈り求めているのは、ユダヤ人が救われることです。

2 私は、彼らが神様の誉れをどんなに熱心に求めているか、よく知っています。 しかし、それは見当違いの熱心なのです。 3 というのも、彼らには、キリスト様が自分たちを神様の前に正しい者とするために死んでくださったことが、わかっていないからです。 そして、ユダヤ教のおきてや習慣を守ることによって、神様の祝福をいただける善良な人間になろうと、努力を重ねています。 しかし、神様はそんな方法でお救いになるのではありません。 4 彼らが、おきてを守ることによって手に入れようとしているものすべてを、キリスト様は、ご自分を信じる人々に与えてくださいます。 そのことを、彼らは悟っていないのです。 キリスト様は、おきてをすべて終結させたのです。

5 モーセは、「もし人が、非の打ちどころなく善良であり、一生涯、誘惑にも負けず、ただの一度も罪を犯さずにいられるなら、その時はじめて救われる」と書いています。 6 しかし、信仰を通して与えられる救いは、こう教えてくれます。 「あなたは、キリスト様を見つけようと天を捜し回る必要も、助けていただこうと引き降ろす必要もない。」 7 また、「キリスト様をもう一度復活させようと、死人の中を歩き回る必要もない。」

8 というのは、キリスト様を信じることによって与えられる救い〔私たちが宣べ伝えているのは、まさしくこの救いです〕は、すでに、私たちのすぐ手の届く所にあるからです。 実際それは、自分の心や口のように、すぐ近くにあるのです。 9 なぜなら、もし自分の口で「イエス・キリストは私の主です」と告白し、自分の心で、神様はイエス・キリストを死人の中から復活させてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。 10 人は、心で信じることによって、神様から正しい者とされ、その信仰を自分の口で告白することによって、救いを確実なものとするからです。 11 聖書は私たちに、「キリスト様を信じる者は、決して失望させられることがない」と教えています。 12 この点では、ユダヤ人もそれ以外の外国人も同じです。 同じ主がユダヤ人にとっても外国人にとっても主であり、求める者にはだれにでも、ご自分の宝を惜しみなく与えてくださるのです。

13 主の御名を呼び求める者は、だれでも救われるのです。

14 しかし、主を信じていなければ、どうして主に、「救ってください」と求めるのでしょうか。 また、主のことを一度も聞いたことがなければ、どうして主を信じることができるのでしょうか。 だれかが教えてくれなければ、どうして主のことを聞けるのでしょうか。 15 また、だれかが遣わさなければ、どうして人々のところへ出かけて教える人が出るのでしょうか。 旧約聖書に、「神との平和を宣べ伝え、良い知らせをもたらす人の足は、なんとうるわしいことか」とあるのは、まさにこのことです。 つまり、神様の良い知らせを伝える人は、なんと歓迎されることか、というのです。

16 しかし、この良い知らせを耳にした人がみな、喜んで受け入れたわけではありません。 預言者イザヤが、「主よ。 彼らに語った時、だれが、私のことばを信じましたか」と言っ

ているとおりです。17しかし、信仰は、このキリスト様の良い知らせに耳を傾けることから、始まるのです。

18しかし、ユダヤ人についてはどうでしょうか。彼らは神様のことばを聞いたのでしょうか。もちろんです。神様のことばは、彼らをどこまでも追いかけ、良い知らせは地の果てまでも告げ知らされたのですから。19さらに、ユダヤ人は、もし自分たちが神様の救いを拒むなら、その救いはほかの人々に与えられることを、知っていたのでしょうか。もちろん、知っていました。というのは、その昔、モーセの時代に、すでに神様はこう告げておられたからです。

「わたしは、無知な異教の諸国民に
救いを与えることで、
わたしの民にねたみを起こさせ、
その目を覚まさせよう。」

20後に、イザヤも大胆にこう言っています。

「捜し求めもしなかった人々によって
神様は見いだされる。」

21その一方、神様はユダヤ人にも、引き続き御手を差し伸べておられるのですが、彼らは何やかやと理屈をこねて、神様のもとに行こうとしないのです。

――

1では神様はご自分の民であるユダヤ人を退け、見捨ててしまわれたのでしょうか。とんでもない。決してそんなことはありません。この私もユダヤ人であり、アブラハムの子孫、ベニヤミン族の一人であることを、忘れないでください。

23もちろん神様は、最初から選んだ自分の民を見捨てるようなことはなさいませんでした。旧約聖書には何と書いてあるのでしょうか。預言者エリヤは、ユダヤ人を告発し、彼らが預言者を殺し、神様の祭壇をこわしたことを神様に申し上げています。そして、「今なおあなた様を愛する者は、この国中で私一人です。その私も、殺されそうなのです」と訴えました。

4それに対して神様が何とお答えになったか、覚えていますか。「いや、あなただけではない。わたしには、なおもわたしを愛し、偶像を拝んだことのない人が、ほかに七千人いる。」

5今でも同じことが言えます。ユダヤ人の全部が神様から離れ去ったわけではありません。神様の恵みによって選ばれ、救われている人々が、少数ながらいるのです。6しかし、それは神様の恵みのおかげであり、彼らが善良だからではありません。そうでなければ、ただであるはずの贈り物が、もはやただでなくなってしまうのです。かせいで手に入れるのであれば、ただとは言えません。

7さて、実情はこうです。大部分のユダヤ人は、追い求めていた神様の恵みを、得ることができませんでした。恵みを得たのは、神様に選ばれた少数の者だけでした。ほか

の人々は盲目にされてしまったのです。 8 旧約聖書に次のように記されているのは、このことなのです。

「神様は彼らを眠らせ、目と耳とをふさがれた。

それゆえ、キリスト様のことを語りかけても、

彼らにはわからない。

今日までその状態は続いている。」

9 ダビデ王も同じことを言っています。

「食卓のごちそうや、さまさまの祝福は

彼らのわなとなれ。 彼らを、

『神様とは万事うまくいっている』

という思いにさせよ。

これらの良いものがはね返って来て、

彼らの頭上に落ち、

当然の報いとして彼らを押しつぶすがいい。

10 彼らの目は見えなくなれ。

重荷を負わされて、

いつまでも背中を曲げたまま歩くがいい。」

11 これは、神様がご自分の民であるユダヤ人を退けてしまわれたことを意味するのでしょうか。 絶対にそんなことはありません。 神様の目的は、このことによって神様の救いが外国人にも及び、その結果、ユダヤ人がねたんで、自分でも救いを求めるようになることにあったのです。 12 ところで、考えてもごらん下さい。 ユダヤ人が神様の救いにつまずき、それを拒んだ時、全世界が豊かに恵まれたのです。 とすれば、後にユダヤ人もキリスト様に立ち返る時には、どんなに大きく、すばらしい祝福が、この世に与えられることでしょう。

13 ご存じのように、神様は私を、あなたがた外国人への特使に任命してくださいました。私はこのことを非常に重んじており、できるだけ多くの機会をとらえては、そのことをユダヤ人に思い出させるようにしています。 14 何とかして、ユダヤ人にも、あなたがた外国人が持っているものを求めさせ、幾人かでも救いたいのです。 15 ユダヤ人がクリスチャンになったら、どんなにすばらしいでしょう。 神様がユダヤ人から御顔をそむけたために、神様の救いが、世界のユダヤ人以外の人々に差し出されたのです。 とすれば、ユダヤ人がキリスト様に立ち返るなら、もっとすばらしいことが起こります。 それはちょうど、死人が生き返るようなものです。 16 アブラハムや預言者は神様の民なので、その子孫もまた、神様の民となるはずで、木の根がきよければ、その枝もきよくなるはずだからです。

17 ところが、アブラハムという木の幾枝か——すなわちユダヤ人のある者——は折り取られてしまいました。 そして、いわば野生のオリーブの木の枝であった外国人のあなた

が、それにつぎ木されました。それで今、あなたも、神がオリーブの木に注がれる、特別豊かな滋養分にあずかって、アブラハムとその子孫とに約束された祝福をいただいているのです。

18 しかし、折り取られた枝の代わりにつぎ木されたことを自慢しないように、注意なさい。あなたが重要なのは、ただ神様の木の一部になっているからです。このことを忘れてはなりません。あなたは、ただの枝であって根ではないのです。

19 あなたは「前の枝が折り取られたのは、私に場所を譲るためだった。とすれば、私はかなりいい人間に違いない」と考えるかもしれません。

20 気をつけなさい。ユダヤ人のその枝が折り取られたのは、神様を信じなかったからであり、あなたがつぎ木されたのは、ただ神様を信じたからにほかなりません。このことを忘れないようにしなさい。高慢になってはいけません。むしろ、謙虚になり、感謝する人になりなさい。また、注意深くなければなりません。21 もし神様がもとの木の枝を惜しまれなかったとすれば、あなたをも惜しまれないでしょう。

22 神様がどんなに恵み深く、また、どんなにきびしい方かを考えなさい。不従順な者には、非常にきびしい方ですが、神様を愛し、信じ続ける者には、とても恵み深いお方です。しかし、もしそうしないなら、あなたもまた、折り取られてしまうのです。23 一方、ユダヤ人が不信仰な生き方をやめて神様に立ち返るなら、神様はまた、もとの木についてくださいます。神様には、そうする力があるのです。

24 あなたは、野生のオリーブの木の一部として、神様から遠く離れた存在でしたが、神様は喜んで受け入れ、ご自分の良い木についてくださったのです。これは異例のことです。とすれば、もともとその木の枝であったユダヤ人にはどうでしょう。もっとたやすく、もとの木につぎ木しようと、構えておられるのではないのでしょうか。

25 愛する皆さん。この神様の真理を知っていただきたいのです。そうすれば、高ぶったり、自慢したりすることもないでしょう。確かに、今のところ、ユダヤ人のある者は、神様の良い知らせに反対しています。しかし、そのような状態が続くのは、あなたがた外国人のうち、そう願う者がすべて、キリスト様のもとに来る時までにはすぎません。

26 その時が来れば、イスラエル人はみな救われます。

このことについて、預言者は何と言っているでしょう。

「一人の救い手がシオンから出て、
ユダヤ人をあらゆる不敬虔から立ち返らせる。

27 その時わたしは、
約束どおり、彼らの罪を取り除く。」

28 今のところ、ユダヤ人の多くは、神様の良い知らせに敵対し、それを憎んでいます。しかし、そのことはかえって、あなたがたには益となりました。というのは、神様がその贈り物を、あなたがた外国人に与えてくださることになったからです。しかし、ユダヤ人は、神様がアブラハム、イサク、ヤコブにお与えになった約束のゆえに、今でも愛さ

れているのです。 29 神様の贈り物と招きは決して取り消されないからです。 神様は決して、約束を破ったりはなさいません。 30 あなたがたは、以前は神様に逆らっていましたが、ユダヤ人が神様の贈り物を拒んだので、代わりに、神様のあわれみを受けることになりました。 31 そして今、ユダヤ人は神様に逆らっていますが、いつの日か彼らもまた、あなたがたの受けている神様のあわれみを共に受けるようになるのです。 32 なぜなら、神様はすべての人を同じようにあわれもうとして、すべての人が不従順の罪に落ちるままにされたからです。

33 ああ、なんとすばらしい神様を、私たちは信じていることでしょう。 神様の知恵と知識と富は、なんと偉大なことでしょう。 神様の取り決めと方法とを理解することなど、とうていできません。 34 いったいだれが、主のお心を知ることができますか。 だれが、主の相談相手、案内役となるほどの知識を持っていますか。 35 また、いったいだれが、主から報いがいただけるほど十分に、主にささげましたか。 36 というのも、すべてのものは、ただ神様から出ているからです。 すべてのものは、神様に生かされており、神様の栄光のために存在しているのです。 どうか、この神様に栄光がとこしえにありますように。

一二

1 愛する皆さん。 そういうわけですから、あなたがたにお願いします。 自分の体を神様にささげてください。 それを、神様に喜んでいただける、生きた、きよい供え物としてください。 神様がしてくださったことを思えば、これは、決してむりな注文ではないはずです。 2 世間の人々の生活態度や習慣をまねてはいけません。 むしろ、すること考えることすべての面で、生き生きとした、全く新しい別人となりなさい。 そうすれば、神の道がどんなに自分を満足させてくれるか、わかるようになります。

3 私は、神様の使者として、あなたがた一人一人に神様の警告を伝えます。 自分を正直に評価しなさい。 神様からどれだけの信仰を与えられているかを尺度にして、自分の値打をはかりなさい。 4 5 私たちの体に多くの器官があるのと同様、キリスト様の体にも、多くの器官があります。 私たちはみな、キリスト様の体の各器官です。キリスト様の体が完全になるには、私たちが必要です。 というのは、それぞれが異なった役目を果たすからです。 ですから、私たちは互いに依存し合っており、だれもが、ほかのすべての人を必要としているのです。

6 神様は一人一人に、何かすぐれた能力を授けてくださっています。 ですから、預言する能力を授かっているなら、できる時にはいつも——神様からのことばを受け取る信仰の力に応じて、できるだけ多くの機会に——預言しなさい。 7 ほかに人々に仕える能力を授かっているなら、快く仕えなさい。 教える立場にあるなら、りっぱに教えなさい。 8 説教をする人であれば、力強く、また、人の助けとなるように説教しなさい。 お金をたくさんいただいているなら、人助けのために、惜しみなく使いなさい。 管理者としての能力を与えられ、人々の仕事を監督する立場にあるなら、その責任を誠実に果たしなさい。

悲しんでいる者を慰める人は、クリスチャンとして、喜んでそうしなさい。

9 ただ見せかけだけで人を愛してはいけません。 真心から愛しなさい。 悪いことを憎み、良いことには味方しなさい。 10 兄弟のような愛情で互いに愛し合い、また、心から尊敬し合いなさい。 11 決して仕事を怠けず、熱心に主に仕えなさい。

12 あなたがたのために神様が計画しておられることすべてを喜びなさい。 困難の中でじっと耐え、常に祈りなさい。 13 クリスチャンが困っている時には、助けてあげなさい。 客を家に招いてもてなし、宿が必要なら泊めてあげるようにしなさい。

14 クリスチャンだからというので、だれかに危害を加えられても、のろってはいけません。 むしろ、神様がその人を祝福してくださるように祈ってあげなさい。 15 だれかがしあわせな思いで喜んでいる時には、いっしょに喜んであげなさい。 悲しんでいる人がいたら、いっしょに悲しんであげなさい。 16 互いに心をつにし、楽しく働きなさい。 お高くとまってははいけません。 偉い人に取り入ろうとせず、かえって、平凡な普通の人々と喜んで交際しなさい。 何でも知っているなどと、思い上がってははいけません。

17 悪いことをされても、決して仕返しをしてはいけません。 だれが見ても、あなたがたの正直さを認めるように行動しなさい。 18 だれとも争ってははいけません。 できる限りあらゆる人と仲よくしなさい。

19 愛する皆さん。 決して自分で復讐してはいけません。 復讐は神様に任せなさい。 なぜなら、神様が、「当然報復を受けなければならない人には、わたしが報復する」と言っておられるからです。 20 むしろ、あなたの敵が飢えていたら、食べさせてやりなさい。 のどが渇いていたら、飲ませてやりなさい。 そうすることによって、あなたは、「敵の頭上に燃えさかる炭火を積む」ことになります。つまり、彼は、あなたにしてくれたことを思って、恥じ入るようになるのです。 21 悪に負けてはいけません。 かえって、善を行なうことによって悪に打ち勝ちなさい。

一三

1 上に立つ権威に従いなさい。 神様がお立てになった権威だからです。 神様によらない権威はどこにもありません。 2 ですから、国の法律に従わない者は、神様に従うことを拒んでいるのです。 その人は必ず罰せられます。 3 正しいことをしている人は、支配者を恐れませんが、しかし、悪いことをしている人は、いつも支配者を恐れるのです。 ですから、びくびくしたくなければ、法律を守りなさい。 そうすれば、安心して過ごせます。 4 支配者は、あなたを助けるために、神様から遣わされているのです。 しかし、何か悪いことをしていれば、支配者はあなたを罰するでしょうから、当然、恐れなければなりません。 そのためにこそ、彼は神様から遣わされているのです。 5 法律に従うには、二つの理由があります。 第一に、罰を受けないためであり、第二に、それを守るべきだとわかっているからです。

6 同じ理由で、税金も納めなさい。 政府の役人が国民のために、神様から与えられた仕事を続けるには、給料が必要だからです。 7 支払うべきものは、だれにでも支払いなさい。

い。税金や輸入税をすすんで納め、上に立つ人々に従い、敬うべき人を敬い、重んずべき人を重んじなさい。 8 借りがあれば、全部返しなさい。ただし、他の人を愛するという「借り」だけは別です。その「借り」だけは、いつまでも返し続けなさい。というのは、人を愛することは、神様のすべてのおきて、すべての要求にかなうことだからです。 9 自分を愛するように隣人を愛していれば、その人を傷つけたり、だましたり、殺したり、その人のものを盗んだりしたいとは思わないでしょう。またその人の妻と罪を犯すとか、その人のものを欲しがるとかいった、「十戒」で禁じられていることは、何一つしないでしょう。このように、十戒はすべて、「自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい」という一つの戒めに含まれるのです。 10 愛はだれにも悪を行ないません。だからこそ、愛は神様の要求をすべて完全に満たすのです。愛こそ、あなたがたに必要なただ一つのおきてです。

11 正しい生活をしなければならない、もう一つの理由があります。すなわち、今や終末に近づいており、時はどんどん過ぎていることに、あなたがたが気づいているからです。目を覚ましなさい。初め信じた時より、今はいっそう、主の来られる時が近いからです。

12 13 夜はふけ、昼がすぐそこまで近づいています。ですから、暗やみに属する悪い行ないを捨てて、昼間生きるため、正しい生活という武具で身をかためなさい。あなたがたの行為は正しいと、だれからも認められるよう、何をするにも、りっぱに、誠実にふるまいなさい。どんちゃん騒ぎをしたり、酔っぱらったり、姦淫したり、肉欲にふけったり、争ったり、ねたんだりして時間を浪費してはなりません。 14 当然なすべき正しい生活ができるように、主イエス・キリストに助けを求めなさい。悪を楽しむような計画を立ててはいけません。

一四

1 仲間に加わりたいという人がいたら、たとえ信仰の弱い人であっても、あたたかく迎え入れなさい。事の良し悪しについて考えが違うからといって、批判してはいけません。 2 たとえば、偶像に供えられた肉を食べてもよいかどうかなどと、議論してはいけません。あなたがたは、偶像に供えられた肉を食べても別に悪くはない、と信じているかもしれませんが。しかし、ほかの人たちの信仰は、もっと弱いのです。彼らは、偶像に供えられた肉を食べるのは悪いとして、全く肉なしですませ、肉類よりむしろ野菜を食べるほうがよいと思っています。 3 肉を食べてもよいと思っている人は、食べようとしない人を見下してはいけません。また、食べようとしない人は、食べる人を非難してはいけません。神様はそのどちらをも受け入れて、自分の子供としてくださったからです。 4 どちらも神様に仕えているのであって、あなたに仕えているわけではありません。神様に対して責任を負うのであって、あなたに責任を負うではありません。正しいか、まちがっているかは、神様がその人に教えてくださるはずです。しかも神様は、その人が正しく行動できるように助けることがおできになります。

5 ある人は、クリスチャンも、神様を礼拝する特別な日として、ユダヤ教の祝祭日を守る

べきだ、と考えています。しかし、他の人は、どの日もみな同様に神様のものだから、いちいちそんな面倒なことをするのは、まちがっているし、ばからしい、と言います。こうした問題については、一人一人が自分で判断しなければなりません。6もし主を礼拝するために特別な日を守っているなら、主をあがめようとしてすることなのですから、良いことなのです。偶像に供えた肉を食べる人についても、同じことが言えます。彼はその肉のことで主に感謝しているのですから、正しいのです。そんな肉には触れようともしない人もまた、主に喜んでいただこうと切に願うからそうするのであって、彼も感謝しているのです。

7 私たちには、自分の生死をかけて決める権利がありません。8 生きるにしても死ぬにしても、主に従うのです。いずれにせよ、私たちは主のものです。9 キリスト様の死と復活の目的は、私たちが生きている時も死んでいる時も、キリスト様がいつも私たちの主となられることだったのです。

10 あなたがたには、自分の兄弟（信仰を同じくする人）を批判したり、見下したりする資格はありません。だれもが、神様のさばきの座の前に立つことを、忘れてはなりません。11 次のように書いてあるとおりです。

「主は言われる。わたしは生きている。
すべてのひざは、わたしの前にかがめられ、
すべての舌は、神に告白する。」

12 そうです。一人一人が、神様に申し開きをすることになるのです。13 ですから、これからはもう、批判し合ってははいけません。むしろ、人をつまずかせないように生活しようと心がけなさい。兄弟が「悪いことだ」と信じていることを目の前でしてみせて、彼をつまずかせるようなことは、絶対にいけません。

14 私個人は、主イエスの權威に基づいて、はっきり確信しています。偶像に供えた肉を食べることは悪くありません。しかし、それを悪いと信じている人がいるなら、悪いことは避けるべきですから、その人は食べてはいけません。15 兄弟が、あなたの食べる物のことで心を痛めているのに、そのまま平気でいるとしたら、愛によって行動しているとは言えません。あなたの食べる物のことで人を滅ぼしてはなりません。その人のためにも、キリスト様は死なれたのです。16 たとい自分の行為は正しいとわかっている、人の批判的になるようなことをしてはなりません。17 なぜなら、私たちクリスチャンにとって大切なのは、何を食べるか何を飲むかではなく、正しさと、平安と、聖霊様から来る喜びとに、満ちあふれているかどうかだからです。18 このようにキリスト様に仕えてこそ、神様に喜ばれ、また、人々にも喜ばれるのです。19 こうして、教会内の調和を目指し、互いに助け合って成長するように努めなさい。

20 ささいな肉の問題で、神様の働きを台なしにしてはなりません。肉そのものは別に悪くなくても、それが他人のつまずきとなるなら、肉を食べるのはよくないということを、忘れないでください。21 肉だけに限りません。酒の問題でも、そのほか何でも、兄

弟をつまづかせたり、罪を犯させるようなことは一切やめなさい。 それこそ正しい行ないです。 22 あなたには、自分のしていることは、たとえ神様の目から見ても潔白だ、とわかっているかもしれませんが。 しかし、その確信は、心にしまっておきなさい。 自分の信仰を人前で見せびらかしてはいけません。 もしかしたら、人々がそのために傷つくかもしれないのです。 このような場合、正しいと思うことをして、しかも、それが罪を犯すことにならない人こそ、しあわせだと言うべきです。 23 しかし、「自分がしようとしていることは悪いことだ」と信じている人は、してはなりません。 悪いと思っ

一五

12 何かをする場合、別に主に対して何の支障もないとわかっていても、ただ自分の喜びのためにするのはいけません。 それは悪いことではないかと、疑問や不安をいだく人のことを思いやり、そういう弱い人々の「重荷」を軽くしてやりなさい。 自分ではなく、人を喜ばせましょう。 そして、人の益になることをし、その人が主にあって成長できるよう助けましょう。 3 キリスト様も、自分を喜ばせようとはなさいませんでした。「彼が来られたのは、実に、敵対する者たちの侮辱を受けて苦しむためであった」と、詩篇の作者が言っているとおりです。 4 ずっと昔に旧約聖書に書かれたこのことばは、私たちに忍耐を教え、励ますためのものです。 また、神様が死と罪の力とを打ち破ってくださる時を、私たちが期待にあふれて待ち望むためのものです。

5 どうか、不動の忍耐力と励ましを与える神様が、あなたがたが一つ思いとなって仲よく暮らしてゆけるよう、助けてくださいますように。 一人一人が互いに、キリスト様の、他の人に対する態度を見なうことができますように。 6 そうしてはじめて、私たちはみな、主イエス・キリストの父なる神をほめたたえ、声を合わせて賛美できるのです。

7 そういうわけですから、キリスト様があなたがたをあたたかく受け入れてくださったように、あなたがたもお互い同士、あたたかく教会に受け入れ合いなさい。 そうすれば、神様があがめられるのです。 8 イエス・キリストが来られたのは、神様がご自分の約束に対して誠実な方であることを示すため、またユダヤ人を助けるためであったことを、思い出してください。 9 それはまた、外国人も救われて、自分たちに対する神様のあわれみのゆえに神様をほめたたえるためでもあったことを、思い出してください。 このことを、詩篇の作者は次のように書いています。

「私は外国人の中で、あなたを賛美し、
あなたの御名をほめ歌おう。」

10 また、ほかの個所にはこうあります。

「外国人よ。 主の民であるユダヤ人と共に喜べ。」

11 さらにまた、

「外国人よ。 主をほめたたえよ。」

すべての人よ。主をほめたたえよ。」

12 また、預言者イザヤはこう言っています。

「エッサイの家系に一人の世継ぎが生まれる。

その方は外国人を治める王となる。

彼らは、ただこの方だけに望みをかける。」

13 そこで、私はあなたがた外国人のために祈ります。どうか、希望を与えてくださる神様が、神様を信じているあなたがたを幸せにし、平安で満たしてくださいますように。またどうか、あなたがたに働きかける聖霊様の力によって、神様にある希望にあふれさせてくださいますように。

14 私の兄弟たちよ。あなたがたが知恵に満ち、善意にあふれていること、そして、これらを余すところなく他の人々に教えることができるほど、よくわきまえていることを、私は知っているのです。15 16 しかし、それにもかかわらず、かなり大胆に、そのことを強調してきました。あなたがたに、そのことを思い起こしてもらいたかったからです。私は、神様の恵みにより、キリスト・イエスから、あなたがた外国人のもとに遣わされた特使であって、良い知らせを伝え、かおり高い供え物として、あなたがたを神様にささげる務めを果たしているのです。あなたがたは聖霊様によって、きよい者、神様に喜ばれる者とされています。17 それで、キリスト・イエスが私を用いてなして下さったすべてのことについて、少しは誇ってもよいと思います。18 私は、キリスト様がほかの人たちをどのように有効にお用いになったかについて、どうこう言うつもりはありません。ただこのことだけは知っています。外国人を神様に導くために、キリスト様が私を役立てて下さったということです。私は、ことごと、生活態度、19 および、神からのしるしとして私を通してなされた奇蹟によって、外国人を神様に導いてきました。すべては聖霊様の力によってなされたのです。このようにして、私は、エルサレムからイルリコに至るまで、キリスト様の良い知らせを、くまなく伝えてきました。

20 しかし、そのあいだ中、私が切に願っていたことは、もっと遠くまで出かけることでした。すでに、だれかほかの人によって教会がスタートしている所ではなく、むしろ、キリスト様という尊い名を、まだ一度も聞いたことがない人々のところで、良い知らせを宣べ伝えたいと、切に望んだのです。21 私は、旧約聖書に述べられている計画に従ってきました。すなわち、イザヤが、キリスト様という名を一度も聞いたことのない人々が、見て理解するようになる、と言っているとおりに。22 このような事情のもとで、私は長いこと、あなたがたのところに行けませんでした。

23 しかし、ついに、こちらでの働きも終わり、長いあいだ待ったかいがあって、とうとう、そちらに行けそうです。24 実は今、スペイン旅行を計画しているのです。その途中、ローマに立ち寄るつもりです。そして、わずかな間でも、共に楽しい時を過ごしてから、あなたがたに送られて、旅を続けたいと願っています。

25 しかし、その前に、エルサレムに行かなければなりません。そこにいるユダヤ人の

クリスチャンに贈り物を届けるためです。 26 ご存じのように、マケドニヤとアカヤのクリスチャンが、いま困難な目に会っているエルサレムのクリスチャンのために、募金することにしたからです。 27 彼らは喜んでしてくれました。 エルサレムのクリスチャンには大きな借りがあると思っているのです。 なぜでしょうか。 キリスト様の良い知らせは、エルサレムの教会から伝えられたからです。 彼らは、エルサレム教会から、良い知らせという、すばらしい霊の贈り物を受けました。 そこで、いくらかでも物質的な援助をして、せめてもの恩返しができればと願っているのです。 28 それで私は、このお金を渡して、彼らの善行を完了させしだい、スペイン旅行の途中で、あなたがたを訪ねたいと思っています。 29 その時には、きっと、主からの大きな祝福をお分かちできるでしょう。

30 どうか、私の祈りの友になってください。 主イエス・キリストのゆえに、また、聖霊様によってあなたがたが私を愛する愛のゆえに、私の働きのために、共に精一杯祈ってください。 31 エルサレムにいる、クリスチャン以外の人々から、私が無事に守られるよう祈ってください。 また、私の持つて行くお金を、エルサレムのクリスチャンが喜んで受け取ってくれるようにも、祈ってください。 32 そうすれば、私は、神の御心により、喜びにあふれて、あなたがたのところに行き、互いに励まし合うことができます。

33 どうか、平安を与えてくださる神様が、今あなたがた一同と共にいてくださいますように。 アーメン。

一六

1 ケンクレヤ町出身の、愛するクリスチャン婦人フィベが、そのうちあなたがたを訪れるでしょう。 彼女は教会で熱心に働いてきた人です。 2 どうか、主にある姉妹として、あたたかいクリスチャンの愛で歓迎してあげてください。 できることは何でもして、助けてあげてください。 この人はこれまで、私も含めて、多くの困っている人を助けてくれたのです。 3 プリスカとアクラによろしく。 この夫婦は、私の同労者として、キリスト・イエスのために働いてきました。 4 事実、二人は、いのちをかけて私を守ってくれたのです。感謝しているのは、私だけではありません。 どの外国人教会でも、この二人には感謝しています。

5 また、礼拝のために二人の家に集まっている人々にも、よろしく伝えてください。 私の親しい友であるエパネトによろしく。 アジヤで真っ先にクリスチャンになった人です。

6 骨身を惜しまず働き、助けてくれたマリヤにもよろしく。 7 それから、私の親類で、私と共に投獄されたこともあるアンドロニコとユニアスがそちらにいます。 彼らは使徒たちにも尊敬されており、私よりも先にクリスチャンになった人たちです。 どうぞ、この二人にもよろしく伝えてください。 8 神様の子供の一人として私が愛しているアムブリアトによろしく。 9 また、私の同労者ウルバノと、愛するスタキスとによろしく。

10 それに、アペレがいます。 主によって認められているりっぱな人です。 よろしく伝えてください。 またアリストブロの家で働いている人たちによろしく。 11 私の親

類ヘロデオンによろしく。 ナルキソの家で働いているクリスチャン奴隷の人たちによろしく。 12 主のために働いているツルパナとツルポサによろしく。 また、主のために大変な苦勞をした愛するペルシスによろしく。 13 主がご自分のものとしてお選びになったルポスによろしく。 また愛する彼の母上にもよろしく。 彼女は、私にとっても母でした。 14 どうか、アスンクリト、フレゴン、ヘルメス、パトロバ、ヘルマス、いっしょにいる他の兄弟たちによろしく伝えてください。 15 フィロロゴ、ユリヤ、ネレオとその姉妹、オルンパ、および、いっしょにいるすべてのクリスチャンに、私の愛をお伝えください。 16 互いに親しみをこめてあいさつを交わしなさい。 こちらのすべての教会が、皆さんによろしくと言っています。

17 この手紙を終える前に、もう一つ言っておきたいことがあります。 キリスト様について今まで学んできたことと反することを教えて、分裂を引き起こし、人々の信仰をくつがえすような人たちから離れていなさい。 18 そのような教師たちは、主イエスのために働いているのではなく、自分の利益を求めているだけです。 彼らは口が達者なので、純朴な人たちは、しばしばだまされるのです。 19 しかし、あなたがたが忠実であり、また真実であることは、だれもが知っています。 ほんとうにうれしいことです。 私は、あなたがたがいつも、何が正しいかについては鋭敏であり、一方、いかなる悪にもうとい者であってほしいと願っています。 20 平和の神様はすぐにも、サタンをあなたがたの足の下に踏み砕いてくださいます。 どうか、私たちの主イエス・キリストからの祝福が、あなたがたと共にありますように。

21 私の同労者テモテと、私の親類のルキオ、ヤソン、ソシパテロが、皆さんによろしくと言っています。 22 ここで、この手紙の代筆を務めた私テルテオも、クリスチャンとして皆さんにごあいさつ申し上げます。 23 ガイオも皆さんによろしくと言っています。 いま私は彼の家で世話になっています。 教会はそこで集会を開いているのです。 市の収入役であるエラストと、クリスチャンの兄弟クワルトも、皆さんによろしくと言っています。 24 では、さようなら。 私たちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがた一同と共にありますように。

25 - 27 私は皆さんを神様におゆだねします。 私が語った良い知らせにあるとおり、この神様はあなたがたを、主にあって強くし、不動のものとなしうる方です。 この良い知らせは、あなたがた外国人を救う、神様の特別の計画であり、世の初めから秘密にされてきたものです。 しかし今や、預言者たちの予告どおり、また神様の命令どおりに、この知らせは至る所に伝えられています。 世界中の人がキリスト様を信じ、従うようになるためです。 ただ一人の知恵に満ちた神様に、私たちの主イエス・キリストによって、栄光がとこしえまでありますように。 アーメン。

パウロ

■